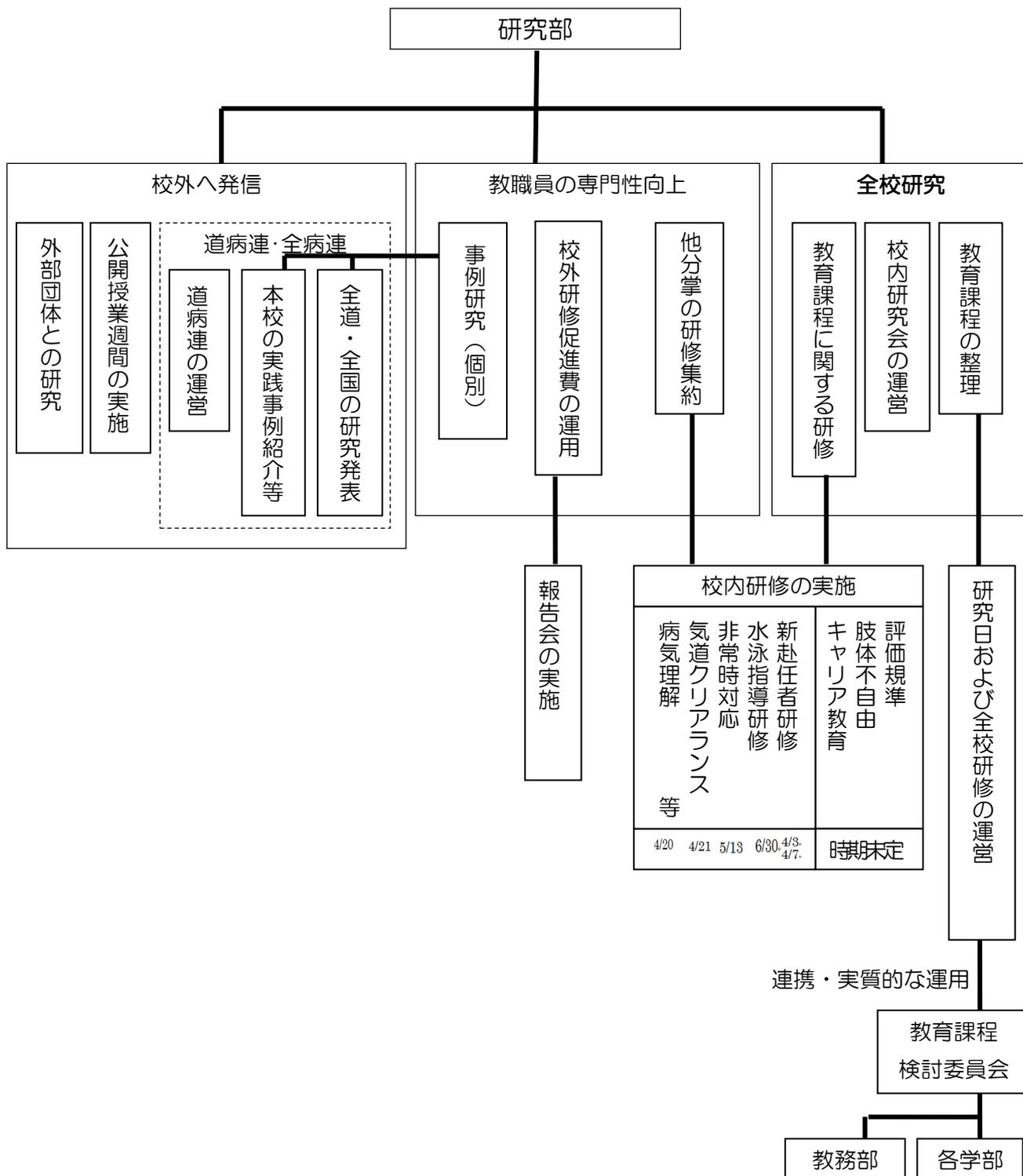


平成27年度 研究について

平成27年4月24日

研究部

1 研究の構成



2 今年度の全校研究の流れについて

(1) 研究主題

「児童生徒一人一人の実態に即した教育課程の編成～各類型に応じた指導内容のあり方～」

(2) 主題設定の理由

本校では平成25年度の研究において、研究主題を「子どもの願いを大切にした指導計画の作成と指導のありかた」と題し、児童生徒の「幸せの一番星(PATH)」から導いた目標を各授業に落とし込み、授業実践を行った。「子どもの願い」からスタートすることで、児童生徒の良さが引き出されるとともに、児童生徒が主体的に学習に取り組みやすくなり、成長が期待できるであろうというねらいがあった。また、複数の教職員で児童生徒の実態を共有する場を意図的に設け、研究授業・研究協議を通じて授業改善や他授業との連携を図ることもねらいとした。

児童生徒に身に付けてほしい力が学校として整理した上で教育課程に反映されたはずであったが、「Step5 必要な力」および「Step6 近い未来」を盛り込んで行った各授業実践では、個別の指導計画と大きく変わらない目標でも、研究がからむと無理な展開となってしまう場面も見受けられ、学校として指導の方向性と教育課程の設定理由の共有が、まだ不十分であるととらえられた。

そこで平成26年度より「児童生徒一人一人の実態に即した教育課程の編成」に取り組む必要があると考えた。理由としては、上記に加えて、教職員の入れ替わりが多く比較的特別支援の経験年数の浅い職員が多い本校には、本校の児童生徒の実態に即した指導内容の指針となるようなものが必要と考えたからである。また、新学習指導要領全面实施を受けた教育課程の見直しが必要とも考えた。

副題を「各類型に応じた指導内容のあり方」としたが、類型別の課題とねらいは以下の通りである。

A 類型については、大学受験や一般的な就労が目指せる児童生徒と下学年の学習が必要な児童生徒が混在している状況がある。より児童生徒の実態にあった教育課程を編成したいと考えた。

B・C 類型については、指導内容は担任および教科等を担当する教職員個人の裁量にまかされている現状がある。学校として指導内容の指針となるようなものの整備や、教科については各学部間の連携を見直すとともに1年間あるいは3年間を見通した指導内容の系統的な配列の整備が必要と考えた。

以上の内容を、2年間かけて行い、平成27年度の教育課程から順次反映していきたいと考えた。

昨年度は、「児童生徒一人一人の実態に即した教育課程の編成～各類型に応じた指導内容のあり方～」の中から、まず自立活動・特別活動・道徳・総合的な学習の時間について指導内容表の作成を行い、指導場面での活用が始まりつつある状況である。

本年度は引き続き、各教科等において指導内容表の作成を行い、児童生徒一人一人の実態に即した教育課程の編成に迫っていきたいと考える。

(3) 目 的

- ・ 本校の指導の方向性を共有する。
- ・ 教育課程の各教科・領域等の指導内容表の作成を目指す。
- ・ 平成27年度以降の教育課程に反映させる。

(4) 期 間 平成26年4月から平成28年3月まで（2年間）

(5) グループ編成 場面に応じてグループ編成を変えて行う

<基本グループ（26年度）>

小学部 AC 類型	中学部 A 類型	中学部 C 類型
高等部 A 類型	高等部 B 類型	高等部 C 類型

<全教職員ランダムグループ（26年度）>

学部・類型をまぜて、6グループ程度に分ける

<自立・特活・道徳・総合）の学部間のすり合わせグループ>

A類型 総合・学級活動グループ
A類型 自立活動グループ
B類型 総合・学級活動グループ
B類型 自立活動グループ
C類型 自立活動・学級活動グループ
道徳教育グループ

<各教科別グループ>

国語	社会	数学	理科	保健体育	音楽	美術
外国語	家庭	職業	情報	合わせた指導		小学部

(6) 方 法

【 平成26年度（1年目） 】

●全校研究会議●

研究の全容について説明し、全教職員で共通理解を図る。

●校内研修●

自立活動	自立活動の目標をたてる演習を行う
教育課程	「教育課程とは何か」をお互い学び合う場とする（案）
合わせた指導	外部講師を招き、「合わせた指導」の基本を学び、実際の授業例などを紹介してもらう。

●研究日●

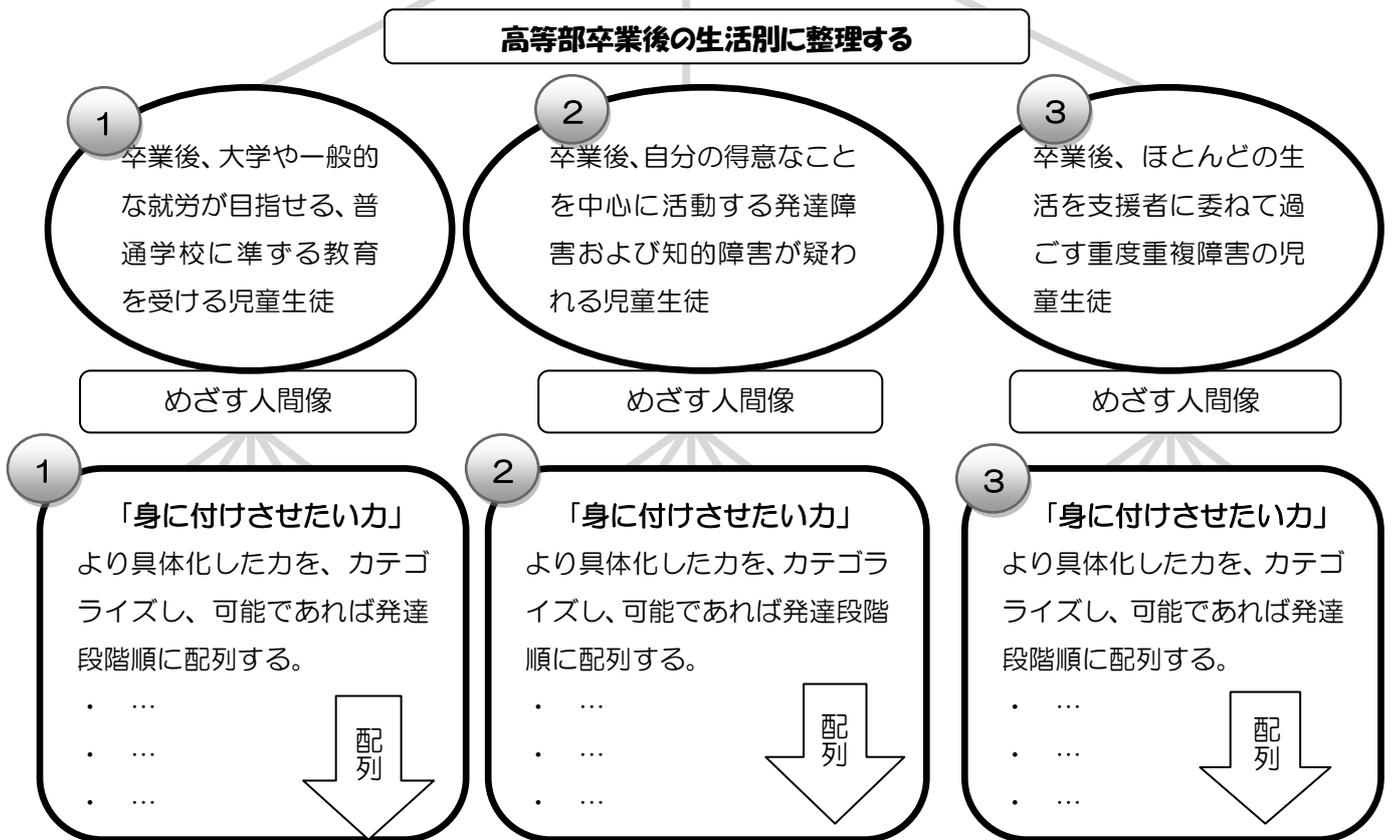
① 指導の方向性の共有

→ 学校教育目標をもとに、在籍する児童生徒の将来の姿を大きく3つに分類し、生徒の実態ごとの「めざす人間像」の共有と、どんな力を身に付けさせたいのかを掘り下げる。

< 26年度 学校教育目標 >

「自らの可能性を生かし、心豊かに生きる人を育てる」
めざす人間像
 ・できることを見つけ、生き生きと生活する人
 ・人とのかかわりを大切にする人
 ・体や命を大事にする人

「全職員ランダムグループ」：学校教育目標をもとに、卒業後をイメージした3つの分類ごとに将来に向けて必要な力や教育で身に付けさせたい力を具体化させる。

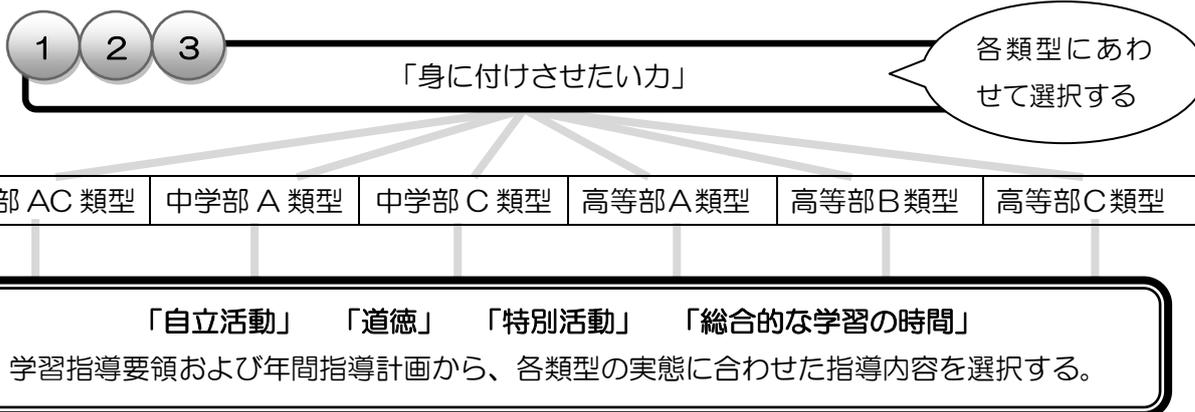


② 各類型の実態を整理し、類型にあった「身に付けさせたい力」を選択する。

「基本グループ」：各学部類型に在籍する児童生徒および、在籍しうる児童生徒（病気による特性）の実態を整理し、3グループでまとめられた「身に付けさせたい力」から、各類型の実態にあった内容を選択する。

③ 指導内容を選択する。

「基本グループ」：選択した「身に付けさせたい力」等から、自立活動、道徳、特別活動、総合的な学習の時間について指導内容を学習指導要領や年間指導計画等から検討し選択する。



② 指導内容を構成する

→ 指導内容の相互の関連を明確化し、発展的、系統的な指導を図るように配列する。

「基本グループ」： 指導内容相互の関連を明確化し、発展的、系統的な指導を図るように配列し指導内容表を作成する。

<指導内容表>

自立活動・・・当初様式

区分	項目	ねらい	指導内容（手立て・配慮事項等）

道徳・特別活動・総合的な学習の時間・・・当初様式

主題／題材／単元 （配当時間）	ねらい	指導内容（手立て・配慮事項等）

●全校研究会議●

各学部類型で作成した内容表を発表、共有、調整をはかる。

●研究日●

次年度の構想の詳細を発表する。

【 平成27年度（2年目） 】

●研究日●

昨年度作成した内容表（自立・特活・道徳・総合）の学部間のすり合わせ等グループ：6グループ

<特活>

- ・系統的に取り入れる必要がある内容の確認（例：情報モラル、性教育等）等

<総合><道徳>

- ・内容の読み合わせ、確認等

<自立>

- ・年齢に応じた内容・・・学部間で内容が逆転していないか確認、整理等
- ・実態に起因する内容・・・内容の重複や過不足のある部分を、削る・合わせる・そのままかを検討等

各教科等グループ：本年度及びこれまでの担当授業教科や学部所属を参考に3～5名程度で編成する。

① 各教科の指導内容を選択する

→ 児童生徒の実態と教育課題をもとに、学習指導要領等から検討し指導内容を選択する。

② 各教科の指導内容を構成する

<指導内容表の作成>

- ・ 児童生徒の実態により指導内容を選択できるように、「ねらい」ごとに配列されたもの
- ・ 学校として必要な内容が精選されているもの
- ・ 「年間指導計画」を作成する際に、参考となるもの

<各教科・行事とのつながり>

- ・ 各教科・行事等の兼ね合いを考慮した、基本となる配列の作成

<教科の系統性>

- ・ 各教科ごとに1年間および3年間を見通した作成

③ 授業時数を配当する

→ 指導内容との関連において、年間授業時数を決める。

児童生徒の実態や各教科等、学習活動の特性に応じて、学期、月、週の授業時数等を定める。

参考 「平成25年度特別支援教育課程改善・充実の手引」
「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」
「北海道立特別支援センター研究紀要 第26号 2013」

(7) 研究に関する推進日程（平成27年度）

月	全校研究・校内研究会	校内研修・校外研修	授業研究関係	公開授業週間	道病連	全病連
4	・全校研究会議（17日）	・新赴任者研修 （3,7日） ・病気理解（石川悠加 医師 20日） ・気道リハビリ （三浦PT,21日）			・入会案内 ・道病研研 修会研究発表 等選定 	・入会案内 ・全病研出席者 決定
5	・自立・特活・道徳・総合 ①(22日) ・各教科等①(22日)	・非常時対応(13日)			・理事会(山の手 :19日) ・会費徴収	・会費徴収
6	・各教科等②(26日)	・水泳学習着替(実技 (16、24、30日)			・道病連 会報発行①	
7	・各教科等③(10日) ・各教科等④(24日)		・事例研究① 主題決定		・研修会（八 雲:31日）	
8						・全病研(京都 4,5日) ・推進委員会
9	・各教科等⑤(11日)					
10	・各教科等⑥(16日) ・仮)校内研究会(30日) 同研究協議					
11	・自立・特活・道徳・総合 ②(13日) ・各教科等⑦ (13日)	・校外研修報告会① (27日)		・公開授業週間 (9-13日) ・授業交流 (詳細後日)		
12	・研究のまとめ①(11日)				・道病連 ・会報発行②	
1	・研究のまとめ② ・次年度以降の研究の方 向性検討 (18日)	・校外研修報告会② (15日)				・DMPだより(筋ジス)原稿 送付
2	・2年間の紀要作成 ・H28道病研大会に向け て(職員会議等で)				・理事会(八雲) ・H28道病研 大会に向けて	
3	・全校研修(22日) (次年度以降の内容・方向 性確認) ・紀要CD-ROM作成		・事例研究② 発表会			
備考	・研究紀要完成、発送	・評価規準() ・肢体不自由() ・キャリア教育() ・情報機器(教務) ・生徒指導(生徒指導)				

3 校内研究会について

- (1) 目的 研究授業を通して、全校研究を深める。
- (2) 日程 10～11月頃（時間割調整を行いできる限り全教職員が参観できるよう工夫する）
- (3) 内容 全校研究にかかわる研究授業（2本程度）、研究協議、講師による助言・講評
- (4) 講師 可能であれば外部講師に本校の研究について講評をいただき、また指導内容表の活用について助言をうけて、それを研究に生かす。

※研究授業を通して、外部講師には本校の実践を知っていただくと共に、校内教職員には本校の特徴的な授業実践を共有し学び合う機会とする。

※研究授業は、小中学部及び高等部で計2本程度とし、教務と連携してできる限り多くの先生が見られる体制をつくる。外部講師は指導主事に、学校訪問に合わせて講評・助言を行っていただくよう調整をお願いしたいが、まずは研究授業及び研究協議を経て、研究のまとめに向けての改善点を自らが明らかにしていく。その上で、外部講師から上積みされる講評や助言がいただけたならば、内容表作成等研究のまとめに結び付けていく。

4 事例研究について

- (1) 目的 児童生徒の課題解決のための実践をまとめ、互いに交流しあう。
- (2) 取扱 1年間を通して行った事例研究を指導事例集としてまとめる。
事例研究会を行い、実践の発表、交流の場とする。
- (3) 内容 基本書式を提示（詳細は後日）
- (4) 発表 7月 研究題目、対象児童生徒の集約
3月 研究の概要を発表

平成27年度 全校研究の進め方（案）

平成27年4月24日（金）

研究部

1 研究主題

児童生徒一人一人の実態に即した教育課程の編成 ～ 各類型に応じた指導内容のあり方 ～

2 研究の目的（平成26年度から継続）

- ・ 本校の指導の方向性を共有する。
- ・ 教育課程の各教科・領域等の指導内容表の作成を目指す。
- ・ 平成27年度以降の教育課程に反映させる。

3 今年度の推進内容

（1）昨年度作成した内容表（自立・特活・道徳・総合）の学部間のすり合わせ

※自立・特活・道徳・総合～自立活動・特別活動・道徳・総合的な学習の時間

（2）各教科等の内容表作成（小学部、中学部、高等部のA類型、B類型）

各教科等	A類型		B類型
	中学部	高等部	
国語	○	国語総合・現代文A・現代文B・古典A・古典B・国語表現	○
社会	○	地理歴史（世界史A・地理A・日本史A） 公民（現代社会・倫理・政治・経済）	○
数学	○	数学I・数学A・数学II・数学B	○
理科	○	科学と人間生活・化学基礎・生物基礎・物理基礎・化学・生物	○
保健体育	○	体育・保健	○
音楽	○	音楽I・音楽II	○
美術	○	美術I・美術II	○
外国語	○	コミュニケーション英語基礎・コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・英語表現I	○
家庭	技術家庭	家庭基礎	○
職業			○
情報	○	社会と情報・情報の科学・（情報演習）	○
合わせた指導	日常生活の指導・生活単元学習		
小学部	国語、社会（生活）、算数、理科（生活）、外国語、体育、音楽、図画工作、家庭		

（3）研究のまとめ～平成26年度、27年度の2年間の研究の紀要作成（2月）、CD-ROM作成（3月）
次年度以降の研究の方向性・内容確認

4 進め方 及び グループング

(1) 昨年度作成した内容表(自立・特活・道徳・総合)の学部間のすり合わせ

○春期に1度、秋期に1度程度 6グループに分かれてすり合わせを行う。

①	A類型 総合・学級活動グループ	後日提案
②	A類型 自立活動グループ	
③	B類型 総合・学級活動グループ	
④	B類型 自立活動グループ	
⑤	C類型 自立活動・学級活動グループ	
⑥	道徳教育グループ	

○各グループ数名程度。昨年度作成にかかわったメンバーが配置されるよう努める。

<特活>

- ・系統的に取り入れる必要がある内容の確認(例:情報モラル、性教育等)等

<総合>

- ・内容の読み合わせ、確認等

<道徳>

- ・内容の読み合わせ、確認等

<自立>

- ・年齢に応じた内容・・・学部間で内容が逆転していないか確認、整理等
- ・実態に起因する内容・・・内容の重複や過不足のある部分を、削る・合わせる・そのままかを検討等

(2) 各教科等の内容表作成(小学部、中学部、高等部のA類型、B類型)

○各教科等の内容表を作成する。

○各教科等の欄について、国・社・数・理・体・音・美・外・家・職・情・合わせた指導・小学部の13に分けて作業を進める。

○担当する量の多少により、各教科等の欄について、複数を担当するグループもある。

<グループングの配慮点>

- ・本年度及びこれまでの担当授業教科や学部所属、各自の希望を参考にして、各グループ3~5名程度で編成する。

後日提案

まとめ方の例

< A類型各教科 >

- ・学習指導要領に則り作成する。単元ごとの評価規準を書く欄を設けたものに、精選のため割愛するものは削除し、配列を変更するものは順を整えて作成する。出版会社のホームページで公開している各教科の「シラバス案」などに評価規準が載っているものがあるので、それをベースにすると作成しやすい。

(仮) 高校理科 [生物基礎]

教科の目標		
生物や生命現象について基本的な知識を習得するとともに、自分自身と生物や生命現象との関連について考えを深め、自分の意見を伝えることができる。		
教科の学習評価の観点		
①【関心・意欲・態度】：生き物や生命現象について学ぶ意欲がある。		
②【思考・判断・表現】：生物の学習指導要領と生物間の多様性を多様な面から考えようとする。		
③【観察・実験の技能】：生命現象より転記を解決するための観察や実験の意義を理解する。		
④【知識・理解】：用語の暗記に留まらず、生命現象を総合的に理解しようとする。		
単元及び指導内容	活動・備考等	単元ごとの評価規準
1 生物と遺伝子 (1) 生物の特徴 ア 生物の共通性と多様性 イ 細胞とエネルギー (2) 遺伝子とその働き ア 遺伝情報とDNA イ 遺伝情報の分配 ウ 遺伝情報とタンパク質の合成 (3) 生物と遺伝子に関する探求活動	[実験] 真核細胞と原核細胞の観察 [実験] だ腺染色体の観察	①【関心・意欲・態度】 新聞やテレビの遺伝子に関する情報を理解できるようになったか。 ②【思考・判断・表現】 多様な生物群が単一の共通先祖に由来すると考えることができたか。DNAの転写翻訳の流れを説明することができたか。 ③【観察・実験の技能】 実験の要点を理解し、適切に観察できたか。 ④【知識・理解】 遺伝情報の維持と発現、タンパク質合成の関係を理解できたか。
2 体内環境の維持 (1) 生物の体内環境 ア 体内環境 イ 体内環境の維持の仕組み		①【関心・意欲・態度】 ②【思考・判断・表現】

< B類型各教科 >

- ・特別支援教育学習指導要領〔知的障害〕の項立てに添い、本校で実施している内容や文献をもとに作成する。（参考書籍：☆つき教科書、新しい教育課程と学習活動Q&A特別支援教育〔知的障害教育〕等）

（仮）B類型 算数・数学

教科の目標	
生活に必要な数量や図形などに関する理解を深め、それらを活用する能力と態度を育てる。	
指導内容	備考
<p>[3段階]</p> <p>(1) 初歩的な</p> <p>(2) 身近にあ</p> <p>(3) 基本的な</p> <p>ったりする。</p> <p>(4) 時計や暦に関心をもつ。</p> <p>[4段階]</p> <p>(1) 日常生活における初歩的な数量の処理や計算をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1～100までの数を数えたり、数字を読んだりする。 ・ くり上がり、くり下がりのない2ケタの加法・減法をする。 ・ 簡単な乗法・除法の意味が分かり、九九程度の計算をする。 ・ 計算機を使って計算する。 <p>(2) 長さ・重さなどの単位が分かり、測定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長さ、重さ、容積を表す単位がわかり、ものさしやはかりなどの扱いに慣れる。 ・ 温度計や体温計のメモリを読む。 <p>(3) 図形の特徴や図表の内容を理解し、作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正方形、長方形、正三角形、直角三角形などのおおよその特徴がわかり、それらを身の回りのものから探したり、書いたり作ったりする。 ・ 身近なものを整理した絵グラフや棒グラフを読んだり、書いたりする。 <p>(4) 金銭や時計・暦などの使い方に慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間を読んだり、簡単な時間の計算をしたりする。 ・ カレンダーに予定を書き込むなどをしながら、暦のおおよその仕組みが分かり扱いに慣れる。 ・ 1000円以内の予算で、金額を超えないものを選べる。 	<p>指導上の留意点や、本校における配慮事項、他教科との関連を書く</p> <p>[メモリ]</p> <p>読みやすい位置に身体を動かさせない子どもには、実物投影機を使用しテレビに映し出すと良い。</p> <p>[図形]</p> <p>筋力や可動域が弱い子どもはPCの描画ソフトを活用</p> <p>[グラフ]</p> <p>身近な人にインタビューし情報収集したものを使用してもよい</p> <p>[金銭]</p> <p>学校祭等の販売活動や見学旅行と関連</p>

<A・B類型あわせて>

特に教科で使用している支援機器があれば、写真を載せる。

(例) 体育：野球、カーリング、スティックなどの道具 等

音楽：竹箆に5円玉をつけたバチ、スイッチのついたドラム 等

美術：柄を長く伸ばした筆、手をつり下げる 等

<合わせた指導>

平成27年度の教育課程の実施状況に合わせて、「日常生活の指導」は通年で行うこと、「生活単元学習」は単元ごとに、主な指導内容、計画時数等を書くと共に、該当する教科名を記入する。

様式 後日提案

5 研究日推進日程

回数	実施内容	
1 (4/17)	全校研修	27 年度研究の説明（提案）
2 (5/22)	自立・特活・道徳・総合① 各教科等①	26 年度作成の自立・特活・道徳・総合の指導内容表について学部間で読み合わせ、整理の方向付け ①各グループ内で推進日程の作成と、役割分担、各グループに1つ見本となる指導内容表を提示
3 (6/26)	各教科等②	②内容表を作成 →作業推進上の課題点を研究部で検討の上、修正・確認事項を提示
4 (7/10)	各教科等③	③ //
5 (7/24)	各教科等④	④ //
6 (9/11)	各教科等⑤	⑤ //
7 (10/16)	各教科等⑥	⑥教科等内容表の完成
8(仮 10/30)	校内研究会	研究授業、外部講師から研究の講評、活用方法の助言
9 (11/13)	自立・特活・道徳・総合② 各教科等⑦	26 年度の指導内容表のすり合わせ完成 評価を受けての調整、整理 27 年度指導内容表完成
10 (12/11)	まとめ	全校研究のまとめ
11 (1/18)		全校研究のまとめ
	職員会議等	次年度以降の研究の方向性集約、検討
12 (3/22)	全校研修	本年度研究のまとめ、来年度以降の研究の方向性確認

※ 8回目は前後の回と入れ替わることもあり。また、10/30の期日も時期の目安。